



第一回

おかやま協働のまちづくり賞

最終審査&表彰式

多様な主体による協働事例に学び、成果を称え合う。

第1回となるおかやま協働のまちづくり賞のインターネット投票と審査員による書類選考が終了し、ファイナリストとして以下の5つの取組が選ばれました。エントリーをくださった全20の取組に関わる組織・個人の皆さま、1300件を超える投票にご参加、ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。いよいよ、この5つのファイナリストの中から大賞を選ぶ最終審査会を以下の日程で開催します。どの取組も市内の素晴らしい協働の事例です。ぜひ当日会場にて直接、ファイナリストの「熱意」にふれ、「工夫」に学び、「成果」を称え、一緒に岡山市の「協働のこれから」を感じませんか。

また、この1年間で岡山市の協働施策はどう進んだか?の報告もいたします。多くのご参加をお待ちしております。

日時:2017年2月19日(日) 13:30~16:30

場所:Junko Fukutake Hall (岡山市北区鹿田町二丁目5-1)

参加無料(定員150名) 主催:岡山市/ESD・市民協働推進センター

FINALIST

さいさい子ども食堂



宇野学区放課後宿題教室



キッズフェスティバル



耕作放棄地を
活用した
笑顔あふれる
地域交流の場づくり



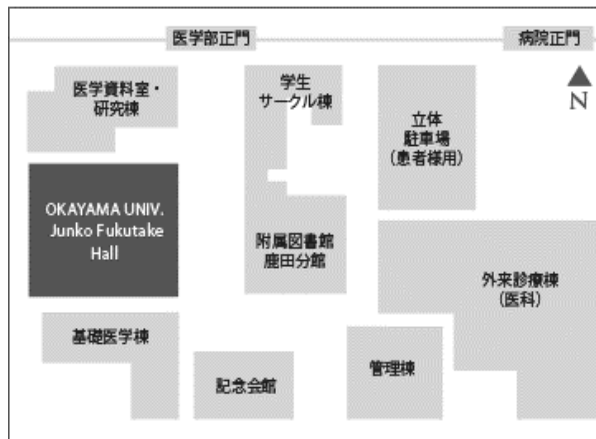
病気の
子どもたちが
安心できる
居場所づくり

会場アクセス (Junko Fukutake Hall)

岡山市北区鹿田町二丁目5-1(岡山大学鹿田キャンパス内)
※駐車場は市営鹿田駐車場をご利用ください。(1時間無料)

お申込み・お問合せ(ESD・市民協働推進センター)

以下まで①お名前②ご所属③ご連絡先を添えてお申込みください。
TEL:086-803-1062 FAX:086-803-1872
E-mail:esd-smc@googlegroups.com



🎯 FINALIST の取組紹介

さいさい子ども食堂

さいさいサポーター

2016年7月22日の終業式の日に子ども食堂のプレオープンを行い、毎月第二土曜日を基本に地域の子どもたちを中心に昼食を提供しています。うちの人が仕事などでいつも一人でご飯を食べている、長時間のお留守番、家族そろっての食事時間がとれないなど、孤食を少しでも減らすことや、家事育児をたまにはお休みしたい保護者の方も子どもさんと楽しく食事をしてもらうなど、「みんなで食べるとおいしいね」を合い言葉に子どもの笑顔と居場所作りを目指しています。また社会問題になっている「子どもの貧困」の解決の一つのツールとして、継続することで必要な子どもに届くようにとの思いで活動しています。

宇野学区放課後宿題教室

宇野小学校放課後子ども教室実行委員会

始まりは、コミュニティハウス建設時、当時の校長先生から、「放課後の学習支援がコミュニティで出来ないか。」という提案から。使用料収入が見込め、地域の子どもの為にもなる言うことで実施を決定した。今年で3年目となる。小学2年生約35人を対象として、年間約50回開催している。下校時の安全を考慮して、火曜日と金曜日の5校時終了後(15時過ぎ)から16時までに行っている。ボランティアは義務感や負担感を感じないよう、「宿題をしているところを見てあげる。」という感覚で、総勢20人ほどが、週1回、曜日を決めて参加している。地域で取り組むことで、ふれ合いが生まれ協働の場づくりとなり、子どもの居場所にもなっている。

キッズフェスティバル

NPO法人岡山市子どもセンター

キッズフェスティバルは、「子どもの遊び欲求を刺激するような楽しい遊びの場、異年齢の多くの人々がふれあう場の提供と市民参加」を目的に、2001年3月、NPO法人岡山市子どもセンターの発足と同時に始めた。参加者数はのべ10万人になる。小学生で参加していた子どもたちが高校生や大学生のボランティアとして、また、大学生のボランティアが、家族を連れて遊びに来るようになっていく。高校生・大学生、大人のボランティアは「考動」をキーワードに、自ら考え行動することを大切にしている。「みんなでつくる！外遊びのおまつり」を合い言葉に、100人を超えるボランティアと来場者が一緒になって笑顔あふれる場づくりを行っている。

病気の子どもたちが安心できる居場所づくり

NPO法人ポケットサポート

岡山大学病院内において、小児がんや心臓病など病気の子どもたちが抱える不安やストレスを医師や看護師以外の第三の立場として関わることで、子どもたちが少しでも前向きに治療や学習に取り組めるように学習支援や交流イベントを開催しています。病室で寝ているときは、【病気=痛い・辛い】ということが頭にあり、子どもたちの笑顔を見ることができません。子どもたちが知育ボードゲームや宿題をしているときは、【病気】のことを忘れて、スタッフにたくさん笑顔を見せてくれます。また、スタッフの中には同じ病気を経験している当事者もあり、不安や悩みを相談でき、子どもたちが安心できる場づくりを行っています。

耕作放棄地を活用した笑顔あふれる地域交流の場づくり

よこいゆめくらぶ

【課題】(1)急速に都市化が進み、農業の担い手が減少し、耕作放棄地が増えている。(2)従来から住んでいた人と新たに住んでいた人との意識の差が生じ、近所付き合いが希薄化し、地域への愛着力が薄れている。(3)子どもたちの農業をする機会が減少している。【取組】(1)耕作放棄地を活用し、交流の場づくりを行っている。(2)『地域で笑顔いっぱいの子ども育てる』という目標のもと、地元町内会・小学校のPTA・親子クラブと連携を図り、地域交流を深めている。(3)3歳から小学2年生までの子どもたちに『さつま芋の苗植え・芋ほり』、小学3年生に『七輪を使って煎餅焼き』、小学5年生に『田植え・稲刈り』の農業体験の指導を行っている。